

## グランシップ 子どもアート体験! 学校プログラム

たくさんのお子もたちに本物の芸術を  
お届けする、アウトリーチ活動を  
実施しています。



### 「人形浄瑠璃 文楽」 出前講座

出演:人形浄瑠璃文楽座  
(竹本織太夫、鶴澤清志郎、吉田一輔、  
吉田玉翔、吉田玉路、吉田簀悠)

5月28日(水)掛川市立第一小学校  
5~6年生 212人

5月29日(木)静岡市立清水小島中学校  
1~3年生 103人

グランシップが一流のアーティストとともに県内の学校へ向く「グランシップ 子どもアート体験」学校プログラム。ユネスコ無形文化遺産である「人形浄瑠璃 文楽」の出前講座を、掛川市立第一小学校と静岡市立清水小島中学校で実施しました。

まず初めに、文楽は、物語を語る太夫、情景や心情を表現する三味線、人形を操る人形遣いの三業からなる日本の伝統芸能であることが説明された後、短い実演を鑑賞しました。今回参加した多くの子どもたちにとって初めて観る文楽です。

太夫の解説では、物語のすべての登場人物を一人で語り分けること、マイクを使わず肉声で語ること、大きな声を出すために使用している道具について説明がありました。笑いの表現や三味線を交えた泣きや怒りの表現を実際にやってみると、子どもたちからは「すごい!」という声が上がりました。三味線の表現では、登場人物が遠くから来るか近くから来るか、また男女や年代など、場面や人物によって弾き方を変えて実演。子どもたちもその違いを感じ取っていました。

人形は、主遣い・左遣い・足遣いの3人で操ります。人形には様々な仕掛けがあり、3人が息を合わせて動かすことで、まるで実際に生きているかのように動く人形に、子どもたち

一つの人形を3人で動かしているとは思えないくらいに動きだった。本当の人間のように見えた。(児童)



最後に「伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の段」の実演を鑑賞。解説と体験を経てから鑑賞することで、様々な視点からより深く文楽の魅力を感じることができたようです。

今後もグランシップでは県内各地で子どもたちが文化芸術に出会い、体験する機会を創出していきます。

このような伝統的な劇が未来にも残っていったらいいなと思った。友達や家族にも広めたい。(児童)



子どもたちは初めて見る文楽に興味津々の様子だった。次の日、「もう少し見てみたかった」と話す子がいた。(先生)



太夫の迫力と、三味線での感情の表し方が心に残った。(児童)